



唐津道

まだまだ知らなかった唐津の魅力を再発見！

佐用姫ってだれ？
 唐津くんち以外のお祭りはあるの？
 虹の松原にどんな不思議があるの？
 戦国時代の名だたる武将が
 一堂に会したお城があったって本当？
 いかの町「呼子」は驚くもあるの？
 弘法大師のゆかしの地があるの？
 海はもちろんだ、花や景色もきれいな

問い合わせ先

市外局番 ☎0955

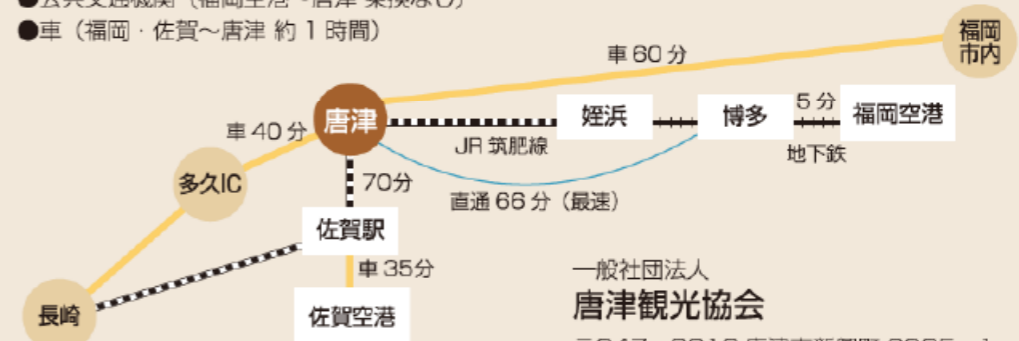
唐津観光協会 センターオフィス	☎74-3355
玄海オフィス	☎51-3007
唐津駅総合観光案内所	☎72-4963
呼子観光案内所	☎82-3426
鎮西観光案内所 (桃山天下市)	☎51-1052
相知観光案内所 (村田英雄記念館)	☎51-8312
浜玉観光案内所 (浜崎祇園山囃子保存会館)	☎56-6937
唐津よかばい旅倶楽部	☎74-3611
唐津市旅館協同組合	☎72-2015
唐津焼協同組合	☎73-4888
昭和バス大手口サービスセンター案内	☎73-7511

タクシー・レンタカー 市外局番 ☎0955

昭和タクシー	☎74-1234
浜崎営業所	☎56-6121
相知営業所	☎62-2110
岩屋営業所	☎63-2024
蔵木営業所	☎63-2067
徳須恵営業所	☎64-2027
呼子営業所	☎82-3814
唐津観光タクシー	☎72-4141
玄海タクシー	☎52-2222
駅レンタカー唐津営業所	☎74-3611
キャルレンタカー&リース唐津駅店	☎74-3611
トヨタレンタリース佐賀 唐津和移田店	☎72-0100
トヨタレンタリース佐賀 大手口支店	☎75-7121
タイムズカーレンタル唐津店	☎73-1851

アクセス

- 公共交通機関 (福岡空港～唐津 乗換なし)
- 車 (福岡・佐賀～唐津 約1時間)



一般社団法人
唐津観光協会
 〒847-0816 唐津市新興町 2935-1
 TEL (0955) 74-3355 FAX (0955) 74-3365
 mail:info@karatsu-kankou.jp
Karatsu Tourist Association
 2935-1, Shinkomachi, Karatsu-shi, Saga, 847-0816, Japan
 Phone:0955-74-3355 FAX:0955-74-3365

ホームページはこちらから
[唐津観光協会](http://www.karatsu-kankou.jp/)
<http://www.karatsu-kankou.jp/>





唐津道

古く、唐(から)・韓(韓国)・唐(中国)などの大陸との窓口(津・港)だった「唐津」は、多くの生命を育む豊かな海、玄界灘を臨み、深く清らかな自然の山々に守られた地。優雅かつ雄大な自然の神韻と、万葉の風・桃山文化の薫りを感じる歴史浪漫に満ちたところです。

もくじ

舞鶴城の別名を持つ唐津城。(旧高取邸・旧唐津銀行)	3
魏志倭人伝の昔から、歴史に彩られた町、唐津。	5
特別名勝・森林浴の森「虹の松原」。	6
唐津っ子の心意気、唐津くんちの三月倒れ。	7
唐津のまつり(山笠・綱引など)	8
桃山時代から続く伝統工芸「唐津焼」。	9
松浦の万葉歌	11
松浦佐用姫を、たずねて。豊臣秀吉の足跡をたどる道「太閤道」。	13
特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」。	15
九州オルレ唐津コース	17

玄界灘に浮かぶ七つの島。	19
捕鯨で栄えた町、呼子。日本三朝市「呼子朝市通り」が面白い。	21
いろは島の絶景。全国棚田百選めぐり。	23
からつ花めぐり。	25
浜玉・虹の松原・鏡山周辺	27
七山	29
肥前・玄海	31
鎮西・呼子	33
北波多	35
厳木	37
浜崎祇園祭・相知くんち	39
イベント・全域マップ	41
観光案内所連絡先	
裏表紙	

年間予定

9	広瀬浮立・星嶺浮立・天川浮立・鳥越浮立【厳木町】 唐津焼展【唐津・アルビノ】 イカまつり【呼子町】 納所くんち【肥前町】 七山彼岸花ウォーク【七山】 鳥嶺浮立【浜玉町】	6	あじさいまつり【相知町】 呼子大綱引【呼子町】 ななやまふるさとまつり【七山】 古窯の森ホテルまつり【北波多】 早苗と棚田ウォーク【相知町】 虹の松原トライアスロン in 唐津【唐津】	1	初釜茶会【鎮西町】 おんじゃおんじゃ【唐津天満宮】
10	玉島川鮎まつり【浜玉町】 七山産業まつり【七山】 中島山笠【厳木町】 菜の花種まき交流会【相知町】 相知くんち【相知町】 ちょっと遊びに来んね。 米んね祭【相知町】 お魚まつり【唐津】	7	九州花火大会【唐津・西の浜】 徳須志祇園祭【北波多】 北波多ふるさと夏まつり【北波多】 浜崎祇園祭【浜玉町】 小友祇園祭【呼子町】 <small>※旧暦6月14日・15日に開催されるため毎年開催日が変更いたします。</small> 増田神社夏祭り【肥前町】 田島神社夏越祭【呼子町】 国際溪流登り in ななやま【七山】 相知町納涼花火大会【相知町】	3	唐津・虹の松原ツーデーウォーク【唐津】 菜の花ハイクと麓台村【相知町】 名護屋城跡「さくらと陣跡ウォーク」【鎮西町】 朝市ふれあいフェスタ【呼子町】 七山桜ウォーク【七山】 虹ノ松原カップ西日本選抜小学生駅伝競走大会【唐津】
11	唐津くんち【唐津】 唐津祭元ツurisム【市内全域】 岸岳炎まつり【北波多】 北波多ふれあいフェスタ【北波多】 風のふるさと祭り【厳木町】 鎮西町産業祭【鎮西町】	8	浜玉納涼花火大会【浜玉町】 水光呼子港まつり花火大会【呼子町】 波戸海中盆綱引き【鎮西町】 七山夏まつり【七山】 厳木町納涼花火大会【厳木町】 鎮西夏まつり納涼花火大会【鎮西町】 虹の松原旗少年野球大会【唐津】	4	ぼたん芍薬まつり【肥前町】 唐津神社春期列大祭【唐津】 唐津やきもん祭り【唐津】 <small>※ゴールデンウィーク中</small> 唐津焼展【唐津・アルビノ】 <small>※ゴールデンウィーク中</small>
12	イカすクリスマス【呼子町】 相知ロードレース大会【相知町】			5	棚田ウォーク【肥前町】

動画



花めぐり



観光



祭り



グルメ



舞鶴城の別名を持つ唐津城

唐津藩八万三千石の初代藩主、寺沢志摩守広高が七年の歳月を費やし完成させた唐津城。
寺沢志摩守広高は、豊臣秀吉の家臣でしたが、関ヶ原の戦いで東軍について活躍したため、上松浦に加え、天草一郡四万石を与えられ、十二万三千石の大名となりました。広高の息子、堅高の時代に、島原天草の乱が起こり、天草一郡の領地を没収されました。



その後、譜代大名大久保氏、松平氏、土井氏、水野氏、小笠原氏が城主となり、明治四年（一八七一年）の廃藩置県により唐津城の歴史は幕を閉じました。
現在の天守閣は、天守台跡に慶長様式を取り入れ、文化観光施設として昭和四十一年十月に完成しました。

唐津城の藤
唐津城の石段を上ると、樹齢100年以上の藤があり、5月初旬には長く美しい薄紫の花が楽しめます。桜・藤と春は唐津っ子のお花見ポイントでもあります。

石炭産業で栄えた唐津。当時をしのぶ炭鉱王の邸宅。旧高取邸



1998年に国の重要文化財に指定され、2001年から5年をかけて修理工事が行われ、2007年4月から「旧高取邸」として公開されています。



旧高取邸は、炭鉱王として成功した高取伊好の旧宅で、唐津市北城内の海岸沿いに建っています。多くの建築専門家や文化庁から建物の価値を評価され、平成十年、十二月に国の重要文化財の指定を受けました。
能舞台、植物の浮き彫りや型抜ききの動植物を施した欄間、絵が描かれた杉戸絵、修復された洋間の漆喰天井などの井などの優れた意匠をみる事ができ、近代和風建築のすばらしさを堪能できます。



の漆喰天井などの井などの優れた意匠をみる事ができ、近代和風建築のすばらしさを堪能できます。

唐津城歴代城主家紋

- 初代 寺沢氏 (一五九五年)
二五九五年
- 二代 大久保氏 (一六四九年)
一六四九年
- 三代 松平氏 (一六七八年)
一六七八年
- 四代 土井氏 (一六九一年)
一六九一年
- 五代 水野氏 (一七六二年)
一七六二年
- 六代 小笠原氏 (一八二七年)
一八二七年



北側は唐津湾に面するため、海城ともいわれています。海岸線に建つ城は日本でも珍しく、お城の東西にある砂浜が翼を広げた鶴のように見える事から舞鶴城とも呼ばれています。



「二の門」交差点近くにある「時の太鼓」は、時間になると侍が太鼓を叩いて時を知らせます。

東京駅を設計した辰野金吾監修の旧唐津銀行



唐津出身で明治を代表する建築家、辰野金吾の弟子である田中実が設計。平成二十三年に当時の姿に復原され、平成二十四年に創建百周年を迎えました。



- 長さ 約4.5km
- 幅 約500m
- クロマツ 約100万本
- 広さ 約216ha(東京ドーム約46個分)

日本三大松原に数えられる虹の松原は、約四百年前に、初代唐津藩主寺沢志摩守が防風・防潮のため、海岸線の砂丘にクロマツを植林したのが始まりとされています。今日では、クロマツを中心に約百万本の松が生い茂る日本一の松原を形成しています。森林浴を楽しみながら散策してみてください。

特別名勝・森林浴の森百選 虹の松原

松原名菓

おもしろ松を
発見してみよう!

虹の松原七不思議

- セミの声がしない**
その昔、豊臣秀吉が虹の松原を巡った時に聞いている蝉に「うるさい！」と怒って以来、蝉の声が絶えたと言います。
- にらみの松**
豊臣秀吉が虹の松原で休憩中、一帯の松原が高く眺望ができなかつた為、「低くなれ！」と呪いで以来、高くない松があります。
- 根上りの松**
松原の高側、松浦川河口付近の千人塚跡にありますが、川の氾濫などで砂が流れて、松の根が現れたものです。
- 楢掛けの松**
楢が立てかけられる壁に板を掛けています。
- クロマツばかり**
虹の松原にある100万本の松は全てクロマツ、潮風に強く水分の少ない所で育つからです。
- 松原の真ん中に真水**
虹の松原ではどこを掘っても豊富な多い水が出ますが、松原地・麻生本家付近の井戸だけは真水が出ます。
- 松原にへびはいない**
浜崎にある御前神社に祀られている御防蛇の額により、昔からへびがいないと言われています。

唐津城下町図

魏志倭人伝の昔から、歴史に彩られたまち、唐津。

唐津駅北口では、巨大な唐津焼で作られた唐津くんちの一番曳山赤獅子がお客様をお出迎え。
この曳山像のためだけに用意された専用の窯で焼かれたという中野窯渾身の一作です。記念写真の一枚は是非この赤獅子の前でどうぞ♪
呉服町商店街(五福の縁結び通り)を抜けると、唐津城の大手門があった大手口に出ます。その昔、この場所は辰野金吾が設計した唐津小学校が建っていました。現在は唐津市役所になっています。
市役所入口の肥後堀は、江戸時代の風景を今に伝えていきます。
曳山展示場、旧高取邸、唐津城をめぐるコースは、徒歩で二時間強の、人気の町歩きです。
また、唐津駅南側のお茶屋通りや、東京駅を設計した辰野金吾(唐津出身)監修の旧唐津銀行も人気のスポットです。

曳山展示場 ☎0955-73-4361
9:00~17:00 (入場は16:40まで)
休館日 12月第1火曜とその翌日
一般300円 小・中学生150円

旧高取邸 ☎0955-75-0289
9:30~17:00 (入場は16:30まで)
休館日 月曜日(月曜日が祝祭日の場合は翌日休館)
一般510円 小・中学生250円

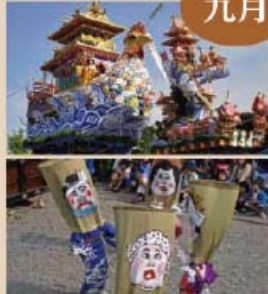
唐津城 ☎0955-72-5697
9:00~17:00 (入場は16:40まで)
休館日 12/29~12/31
一般410円 小・中学生200円

旧唐津銀行 ☎0955-70-1717
入館料無料
休館日 12/29~31
館内を見学すると駐車料金1時間無料

●唐津城 410円
●旧高取邸 510円
●曳山展示場 300円
上記の3施設共通入場券がおすすめ!
大人1,000円・子供500円

唐津くんち だけじゃない! 唐津のまつり 山笠・綱引 など

九月



納所くんち (肥前町)
 納所くんちは、納所住吉神社の秋季大祭で、五穀豊穡を感謝する秋祭りとして数年に一度開催している伝統行事です。写真のガメ踊りは毎年奉納されています。



小友祇園祭 (呼子町)
 旧暦のため年により月が替わります。万治元年(一六五八年)当地に流行したコレラの疫病退散を祈願し、笠竹に御幣を付けて村内を回ったことが神事の始まりだと言われている。山笠が海を渡る珍しいお祭り。



増田例大祭 (肥前町)
 毎年命日の七月二十日に近い日曜日、コレラに侵された村を救うために自らの命を顧みず、人々に尽くし切つて警神となった増田敬太郎巡査を偲んで開催されている。



浜崎祇園祭 (浜玉町)
 宝暦三年(一七五三年)浜崎の浜区の綱元・中村屋久兵衛が京都の八坂神社を参拝した帰路、博多で榎田神社の山笠を見物し、地元の病疫退散と五穀豊穡を祈願して始まった。

七月



広瀬浮立 (厳木町)
 毎年、八幡神社例祭、宮地嶽神社例祭の2回、天山神社境内で奉納される。見るべきは、神前で古風な太鼓の鉢さばきを披露する「ねじり囃子」。演芸的な要素が少なく、佐賀県の重要無形文化財に指定されている。



中島山笠祭 (厳木町)
 若宮神社の秋季例祭に奉納される祇園山笠。大正から昭和初期に流行した疫病退散のために奉納。以後、昭和初期から昭和二十八年(一九五三年)まで続けられていたが一時期中断していたものが地域の人々たちによって復活した。



鏡くんち (唐津市鏡)
 唐津で最も古い鏡神社の秋季大祭。浜崎系の山笠で、かつては高さ十二メートルあった。一時断絶絶えていたが、昭和五十二年(一九七七年)に復活。



相知くんち (相知町)
 熊野神社の秋の大祭で、古くは「供日(9日)」である十月十九、二十日に行われていた。祭りの主役は「羽熊(はぐま)」と呼ばれる毛槍を投げ渡しながらか進む江戸時代末期の大名行列を模した行列。

十月

呼子大綱引きは、豊臣秀吉が朝鮮出兵のために名護屋布陣の際、士気鼓舞のため加藤清正と福島正則の陣営を東西に分け軍船のとも綱の引き合いをさせたことが始まりという。平成25年3月12日、国の重要無形民俗文化財に指定。



呼子大綱引 (呼子町)
 四百年以上の伝統を誇る鎮西町波戸の「海中盆綱引き」は、豊臣秀吉が将兵の士気高揚と盆供養のために1590年ごろ取り入れたと伝えられている。



唐津くんち 曳山14台



唐津くんちは、唐津市南城内にある唐津神社の秋季例大祭です。「漆の一閑張り」で造られた十四台の巨大な「曳山」が「エンヤヤーエンヤヤー! ヨイサ、ヨイサ!」の掛け声とともに旧城下町を練り歩きます。

曳山は最大のもので高さ約六・八メートル、重さ約三トンにもおよび、豪華絢爛で迫力あふれる曳山は、一見の価値あり! 毎年十一月二日の「宵ヤマ」に始まり、三日の「御旅所神幸」、四日の「町廻り」で幕を閉じます。

昭和三十三年に曳山十四台が佐賀県重要文化財に、昭和五十五年には「唐津くんちの曳山行事」が国の重要無形民俗文化財に指定されました。

各家庭では、祭りを彩る「くんち料理」が振る舞われ、唐津っ子は三ヶ月分の稼ぎを使い果たすと言われています。この事を「三月倒れ」と言います。

長い歴史の中で受け継がれてきた匠の技と現代作家による新たな感性が育んだ、表情豊かな唐津焼。



岸岳古窯跡

唐津焼発祥の地、飯洞壺下窯。唐津系最古の窯で、岸岳系古唐津と呼ばれる陶器の器、皿、小杯、瓶、甕などを焼いていた。朝鮮北部系の割竹式登り窯であり、海技、焼成技術が日本に伝授されたことを立証するに足る貴重な遺跡である。岸岳城主波多氏の黒い保護のもとに城下周辺に多くの窯が築かれたが、文禄三年、波多氏没落とともにそのほとんどが荒廃し現存する飯洞壺下窯は当時の窯築形式を今に残す唯一の文化遺産である。



窯元めぐりもよかもんよ。いっぺん足ば運んでみらんね。

唐津焼の起源は諸説ありますが、室町時代末から桃山時代にかけて、岸岳城主波多氏の領地で焼かれたことが始まりとされています。その後、豊臣秀吉による朝鮮出兵の際に、朝鮮陶工を連れて帰り、その陶工たちが各地で窯場をつくり焼き始めたことで、唐津焼の生産量は拡大していきまます。登り窯や、蹴口クロ、釉薬法など、朝鮮渡来の技術の導入によって作風や種類も豊かになり、全国に流通したことで唐津焼は日本を代表する焼物となり、西日本では焼物のことを「からつもの」と呼ぶほどまでに有名になりました。

また古くから茶の世界では、「一井戸、二楽、三唐津」という茶碗の格付けがあるように、茶の湯の名品として多くの茶人に愛され、江戸時代には唐津藩の御用窯として発展しました。その後、藩の庇護を失った唐津焼は衰退しますが、人間国宝の中里無庵が古唐津の技法を復活させ、勢いを取り戻しました。

現在では、70もの窯元が唐津市内に点在します。長い歴史の中で培われた先人の技を継承し、現代作家の新たな感性を取り入れることで、それぞれの窯元に独自の作風が生まれてきています。

この伝統と革新の中で育まれた多彩な表情こそが、世界中のファンを虜にする唐津焼の魅力なのです。

【唐津焼絵付け体験】 体験スペースにて、唐津焼を体験出来ます。初めての方でも十分楽しめます。詳しくはお問い合わせください。
唐津焼総合展示場 唐津市新興町ふるさと会館アルピノ2F tel.0955-73-4888 営業時間/9:00~18:00



粉引

褐色の粘土を使い、素地がまだ生乾きのうちに白色の化粧土を全面にかけて乾燥させた後、長石釉や木灰釉をかけて焼いたものをさします。白い粉が吹いているような風合いから、この名がついたと言われています。粉引は高麗茶碗に用いられていた技法の一つで古く朝鮮のものに名品が多くみられますが、古唐津諸窯では生産されていませんでした。近代になって取り入れられた、唐津焼では比較的新しい技法です。



黒唐津

鉄分を多く含んだ黒釉をかけて焼いたものを指します。鉄分を多く含む岩石を砕いて、土灰釉に混ぜたもの、胎土に鉄分が多く釉色が黒みがるもの、鉄分の多い泥を化粧がけするものなど様々な技法があり、多くの窯で焼造されてきました。鉄分の量や酸化の度合いにより、艶色や柿色、黒褐色など幅広い色彩を生み出しますが、全て黒唐津と呼ばれています。ぐい呑みや片口、皿として広く用いられています。



三島

器がまだ生乾きのうちに印花紋、線彫、雲鶴(うんかく)などの文様を施し、化粧土を塗った後、削りまたは拭き取り仕上げを行い、長石釉や木灰釉をかけて焼いたものを指します。象嵌(そうがん)の一種であり、唐津では江戸時代に生産が始まりました。朝鮮の李朝三島の技法を伝承したことから、三島と呼ばれています。茶碗などの茶器によく用いられ、日本の多くの産地にその種類を見ることが出来ます。



斑唐津

藁灰などを混ぜた失透白濁する釉薬をかけたもので、粘土中の鉄分や窯を炊く燃料である松の灰が溶け出し、乳白色の表面に青や黒の斑点がぼつぼつと現れる事からそう呼ばれています。別名「白唐津」とも呼ばれています。唐津焼発祥の地とされる岸岳窯で16世紀に始まったと推測され、当時の斑唐津を再現しようと現代の多くの作家が挑戦を続けています。茶碗や猪口(ちよこ)に多く用いられています。



朝鮮唐津

鉄分の多い鉄釉または鉛釉と藁灰釉を上下・左右にかけて焼いたものを指します。鉄釉の黒と藁灰釉の白のコントラスト、境界に生まれる青や紫、黄色などの繊細な色や流れ落ちる多彩な表情が特徴的であり、表面に現れるその変化は自然の風景に見立てた「景色」を表現しています。景色を愛でる茶陶の世界で重宝されており、水指・花入れなど、茶器として多く用いられています。



絵唐津

比較的鉄分の少ない薄茶色の素地に鬼板(おにいた)と呼ばれる鉄給貝で文様を描き、長石釉や土灰釉などの透明の釉薬を上から薄くかけて焼いたものを指します。草、木、花、鳥、人物や線文・幾何学文など、陶芸の生活の身近にあるものが指や筆で描かれており、素朴ながら繊細で力強い表情を生み出しています。唐津焼の中ではもっともポピュラーな種類とされており、向付や皿、鉢などに多く用いられています。

松浦の万葉歌

万葉集とは

万葉集は、七百六十年前後に編集されたといわれている、現存する日本最古の和歌集です。全二十巻、約四千五百首からなる万葉集は、天皇や皇族から庶民までがその想いを三十一文字の歌に込めました。

唐津周辺では、神功皇后や松浦佐用姫の伝説など折り込んだ三十首が詠まれ、その歌碑は二十三のぼりまです。古人（いにしえびと）が唐津の地で感じた万葉の風景を今一度見つけ直してみましよう。

①万葉垂綸石公園 ②万葉の里公園は神集島(かしわじま) ③七山 ④鏡山 ⑤殿原寺 ⑥佐用姫岩 (41頁〜42頁参照)

松浦川(玉島川) 十二首

あさりする 漁夫のごどもと人は言へど
見るに知らえぬ うまひとの子と 大伴旅人
玉島の この川上に 家はあれど
君をやさしみ 表はさずありき 大伴旅人
松浦川 川の瀬光り 鮎釣ると
立たせる妹が 裳の裾濡れぬ 大伴旅人

松浦なる 玉島川に鮎釣ると
立たせる児らが 家道知らずも 大伴旅人
遠つ人 松浦川に 若鮎釣る
妹が手本を 我こそまかめ 大伴旅人
若鮎釣る 松浦の川の 川なみの
なみにし思はば 我恋ひめやも 大伴旅人
春されば 我家の里の川門には
鮎子さ走る 君待ちがてに 大伴旅人
松浦川 七瀬の淀は 淀むとも
我は淀まず 君をし待たむ 大伴旅人
松浦川 川の瀬速み 紅の
裳の裾濡れて 鮎か釣るらむ 大伴旅人
人皆の 見らむ松浦の 玉島を
見すてや我は 恋ひつつ居らむ 大伴旅人
松浦川 玉島の浦に 若鮎釣る
妹らを見らむ 人のともしさ 大伴旅人
君を待つ 松浦の浦の娘子らは
常世の国の 海人娘子かも 吉田 宣

三島 三首

足日女 神の命の 魚釣らすと
み立たしせりし 石を誰見き 山上憶良
百日しも 行かぬ松浦道 今日行きて
明日は来なむを 何か障れる 山上憶良
松浦県 佐用姫の児が領巾振りし
山の名のみや 聞きつつ居らむ 山上憶良

松浦佐用姫 六首

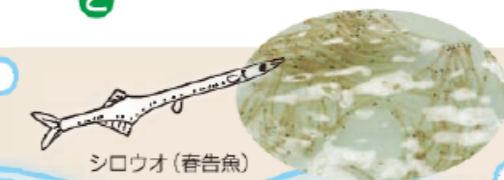
遠つ人 松浦佐用姫 夫窓に
領巾振りしより 負へる山の名 大伴旅人
山の名と 言い継げとかも 佐用姫が
この山の上に 領巾を振りけむ 大伴旅人
万代に 語り継げとし この岳に
領巾振らけらし 松浦佐用姫 大伴旅人
海原の 沖行く舟を 帰れとか
領巾振らしけむ 松浦佐用姫 山上憶良
行く舟を 振り留みかね いかばかり
恋しくありけむ 松浦佐用姫 山上憶良
音に聞き 目にはいまだ見ず 佐用姫が
領巾振りきとふ 君松浦山 三島 王

狛島の亭 七首 ※狛島 柏島(かしわじま)

帰り来て 見むと思ひし 我がやどの 奉 田麻呂
秋萩すすき 散りにけむかも 娘子
天地の 神を乞ひつつ 我待たむ 娘子
はや来ませ君 待たば苦しも 娘子
君を思ひ 我が恋ひまはくは あらたまの
立つ月ごとに 避くる日もあらじ 娘子
秋の夜を 長みにかあらむ なぞこは
眠の寝らえぬも ひとり寝ればか 娘子
足日女 御舟泊てけむ 松浦の海
妹が待つべき 月は経につつ 娘子
旅なれば 思ひ絶えても ありつれど
家にある妹し 思ひ悲しも 娘子
あしひきの 山飛び越ゆる 雁かねは
都に行かば 妹に逢ひて来ね 娘子

松浦船 二首

さ夜ふけて 掘江漕ぐなる 松浦舟
梶の音高し 水脈速みかも
松浦舟 さわぐ堀江の 水脈速み
梶とる間なく 思ほゆるかも



万葉垂綸石公園

『鮎』漢字発祥の地

玉島川と平原川の合流地に整備された万葉垂綸石公園。三韓征伐の途中、この地に立ち寄られた神功皇后が、戦勝を占うために釣りをされた時、見事な鮎が釣れたため「鮎」という漢字が生まれたとの伝説があり、その時に立たれていた石(または垂綸石)が置かれている。

松浦佐用姫を、たずねて。

唐津各地に残る「松浦佐用姫」の伝説は、日本三大悲恋物語の一つといわれています。その昔、百済に出兵する大伴狭手彦と、地元豪族の娘、佐用姫は恋仲になりました。狭手彦の船が百済に向けて出航すると、佐用姫は鏡山の上から領巾（ひれ）を振って見送りました。船影を追い、呼子加部島に渡った佐用姫は、いよいよ船が見えなくなると、泣き崩れ石になったという物語です。『肥前国風土記』には狭手彦と弟日姫子（おとひめこ）の物語が記されています。こちらは、狭手彦出兵後、よく似た男が弟日姫子のもとに通うようになり、これが沼蛇の化身であることがわかると、弟日姫子は沼に引き入れられて死んでしまう、という少し違った結末が描かれています。

唐津市内には、様々な素材、大きさの「佐用姫像」があります。あなたのお気に入りの佐用姫像を探してみませんか？



道の駅敷木 風のふるさと館

佐用姫の誕生地、邸宅があった場所と言われる敷木町。道の駅には、高さ12mの巨大な佐用姫像があります。



殿原寺 (川上神社)

佐用姫の邸宅跡とも伝わる殿原寺には、屋敷に植えられていた椿の大木で造られた観音像（佐用姫がモデルと言われている。）秘仏根木観音が祀られています。



鏡山 (領巾振山)

百済に出兵する大伴狭手彦の船を鏡山の上から領巾を振って見送ったことから別名「領巾振山（ひれふりやま）」と呼ばれています。



佐用姫岩

松浦川西岸にある「佐用姫岩」には、大伴狭手彦の船を追いかけ、鏡山の上から飛び降りた佐用姫の足跡が残っていると伝えられています。



衣千山

鏡山から飛び降りた佐用姫が、松浦川で濡れた衣を干した場所と言われており、それが山の名前の由来だと伝えられています。



田島神社 (加部島)

大伴狭手彦の船を追って、呼子町加部島にたどり着いた佐用姫は、その船影が見えなくなると七日七晩泣き続け、石になったという伝説が残っています。田島神社には、石になった佐用姫の姿に似た「望夫石（ぼうふせき）」が祀られています。

豊臣秀吉の足跡をたどる道 太閤道

戦国時代に、天下統一を成し遂げた豊臣秀吉。福岡県の博多をはじめ、北部九州には秀吉の足跡が数多く残されています。文禄・慶長の役の際に唐津市鎮西町に大坂城をも凌ぐとも言われた名護屋城を築城し、全国の名だたる武将が陣を構えました。名護屋城へ至る道は「太閤道」と呼ばれ、浄泰寺前の「名護屋口」が起点とされています。名護屋城へ向かう途中には、一里塚があり、戦国武将が歩いた道を、往事に思いを馳せながら歩いてみませんか？



観音の滝 (七山)

玉島川の上流に位置する観音の滝には生目観音を祀る福聚院があります。名護屋城で秀吉の身の回りの世話をしていた広沢局が眼病を患い、この生目観音で二十一日間祈禱し、滝の水で目を洗ったところ眼病が完治したことから、眼病を治す観音様として知られています。



浜崎けいらん・けえらん (浜玉町)

秀吉が朝鮮出兵を前に、諏訪神社に戦勝祈願に訪れた際、地元の住民が献上した菓子が大変美味であったため「こんな美味しいものを食べたので、勝つまで帰らん」と言った事にちなんで、この菓子の事を帰らないの方言「けいらん」(けえらん)と呼ぶようになりました。けいらん(けえらん)はうるち米を蒸してついたものを伸ばした生地を小豆餡を包んだお菓子で、諏訪神社前に数店が並んでいます。店の味を是非、食べ比べてみませんか？



切木ぼたん (肥前町)

かつての唐津東松浦の領主波多三河守と妻、秀の前が愛した明国渡来のぼたんを、代々大切に守り育てたものです。毎年四月中旬、一株から分かれた枝が四方に広がり、五百以上もの大輪の花を咲かせ、唐津市肥前町の春の風物詩となっています。波多氏の居城、岸岳城が秀吉によって攻め落とされた後、秀吉の菩提を弔う意味を込めて、博多祇園山笠にぼたんの花をかざらせたとも言われています。



広沢寺・ソテツ (鎮西町)

名護屋城山里丸・広沢寺境内にあるソテツ。このソテツには加藤清正が朝鮮から帰国する際、持ち帰り、秀吉に献上したところ、太閤自ら植えたという言い伝えが残っています。高さは3メートルを超え、枝張り約6メートルもの巨木を誇っています。大正13年(1924年)に天然記念物に指定されました。



法光寺・太閤お手植えの桜 (鎮西町)

朝鮮出兵で名護屋城に滞在した豊臣秀吉が、伊達政宗に命じ陸前塩釜(現在の宮城県塩釜市)より桜の木を持参させ自ら桜を植えたといわれています(別名、塩釜桜)。高さ7メートル、根回り3メートル、枝張りは11メートルで、推定樹齢は400年。「佐賀名木100選」にも選ばれています。



袋状の組紐の帯 名護屋帯は、全国で流行したゾ。

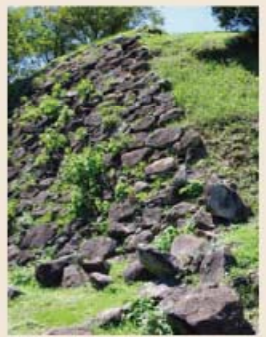
陣跡めぐり MAP

赤文字は国指定「特別史跡」



名護屋城跡 ガイド MAP

当時は、大阪城に次ぐ規模のお城でした。



名護屋城跡(石垣)

名護屋城は、豊臣秀吉が文禄・慶長の役の際に、国内拠点として築いた城です。

文禄元年（一五九二年）から、秀吉が亡くなるまでの七年間に、全国から20万人を超える人々が集まったといわれ、現在、名護屋城跡と23箇所の陣跡が国の特別史跡に指定されています。国内でこれほどの名だたる武将が一堂に会した城、陣跡はなく、大変貴重な歴史的遺産です。

七年にわたり続いた大陸の近隣諸国との戦いは、歴史上不幸な爪痕となっている事も確かです。隣接する名護屋城博物館は日本列島と朝鮮半島との交流歴史を調査・研究・展示紹介し、友好・交流の推進拠点になることを目指しています。

特別史跡 「名護屋城跡並びに陣跡」



1 堀秀治陣跡
16歳の若さで6,000人の兵を率いて参陣したが、渡海せずこの陣で生活しました。広間、御殿、能舞台跡、数寄屋跡などの遺構があります。



2 茶苑 海月 (茶道体験)
茶苑海月 入場料/大人500円。(抹茶とお菓子付き)
名護屋城跡の四季を楽しみながら、気軽にお抹茶とお菓子が頂けます。



3 国の特別史跡 名護屋城跡
国の特別史跡に指定された肥前名護屋城跡は、豊田秀吉が1592年に築いた城で、日本に残る桃山時代の城郭の中では、最大級であり、現在でも立派な石垣が残っています。天守台では、遠くを眺め、対馬まで、玄界灘の素晴らしい風景を見渡すことができます。桜の名所でもあり、春は訪れる人々の眼を楽しませてくれます。



4 唐津焼窯元 炭向窯
古くより茶人をはじめ、広く人々に親しまれている唐津焼。秀吉が朝鮮出兵の際、連れてこられた陶工達によって発展したと言われています。コース上には、唐津焼の窯元『炭向窯(ひなたがま)』があり、窯とギャラリーを見学できます。



5 波戸岬 (さざえのつぼ焼き屋台)
東松浦半島の最北端に位置する「波戸岬」。玄界灘を一望でき特に夕日が沈む海の様子は格別、オレンジ色に染まった海と島影が見事なコントラストで息を呑む美しさ。サザエのつぼ焼き屋台では地元のおばちゃんが焼いてくれるサザエが絶品です。

コース内の要所には『カンセ』と呼ばれる九州島の馬をモチーフにしたオブジェや青と赤のリボン、木製の矢印やペイントされた矢印などの標識を設置しています。
目印に沿って歩きましょう。
スタートからフィニッシュ地点へ向かう場合は『青』、フィニッシュからスタート地点へ向かう場合は『赤』で示しています。

オルレの歩き方

■オルレのマナー

1. 民家の庭にみだりに入らない。
2. 人や個人のを撮影する時は同意をもらう。
3. ゴミは必ず持ち帰る。
4. 道沿いの農作物を勝手に採らない。
5. 道端に咲いている花や木の枝を採らない。
6. 民家付近等で大声で叫んだり、騒いだりしない。
7. 次に訪れる人の為に、リボンを持ち帰らない。
8. 道案内の看板にはさわらない。
9. 未舗装の道は、決まった経路を通る。
10. 風景を楽しみながらゆっくりと歩く。
11. 車道を歩く時は、車に気をつけて歩く。
12. コースから外れた急斜地等での危険な行動は控える。
13. 途中出会う旅行者や地元住民の方々と笑顔で挨拶をかわす。



九州オルレ唐津コース

唐津のスロートゥーリズム 桃山文化をたどるトレッキング

『オルレ』は、韓国・濟州島から始まったもので、もともとは濟州島の方言で『通りから家に通じる狭い路地』という意味。自然豊かな濟州島で、トレッキングする人が徐々に増え、『オルレ』はトレッキングコース総称として呼ばれるようになり、今では韓国トレッキングの中心的コースになっています。

オルレの魅力は、海岸や山などを五感で感じ、自分のペースでゆっくりとコースを楽しむところにあります。

玄界灘に浮かぶ

七つの島

島の人々の暮らしは、私たちに生命というものをかんじさせてくれる。

時に穏やかで、時に荒れ狂

う玄海灘に浮かぶ大小七つの島々。

島には一島一様に育んできた文化があり、代々伝わって来た伝統がある。

生業とする漁や交通手段は船だけという自然に左右される暮らし。

人の力では逆らえない事があることを身に染みて知る島の人々は「ケセラセラ」なるようになれ」と実におおらかだ。

島に暮らす子供達も純真で優しく、大人たちは信仰に厚く祈りと感謝を忘れない。

島の人々の暮らしには、私たちに人間も自然の一部だということを感じさせてくれる。これからの文化と伝統を守りつつ、新しい生き方も模索していく。



捕鯨に沸いた島は、今も豊かな海と暮らす古くから捕鯨基地で栄えた島。今は、新鮮な海の幸の醍醐味を味わい満足気分。グルメ党や釣り人でにぎわう。

おがわしま ③ 小川島



小川島～呼子
旅客船名/そよかぜ
連絡先/川口汽船㈱
☎0955-82-8025

恋人や家族への思いを詠う万葉の島

神集島は万葉集とゆかりのある歴史の島。歌碑に秘められた太古のロマンに感動のひとつときを。

かしわじま ② 神集島



神集島～湊
旅客船名/からつ丸
連絡先/唐津汽船㈱☎0955-79-1365



島民は敬虔なカトリック信者 ロザリオの島

歴史はわずか150年ほどの若い島。島民のほとんどがカトリック教徒。

まつしま ⑤ 松島



松島～呼子
旅客船名/新栄
連絡先/中尾
☎090-7165-0909



韓国との友好を深める百済25代国王の誕生地

伝説が伝説ではなくなった「武寧王」の生誕地。加唐島から広がる日韓友好の輪。

かからしま ④ 加唐島



加唐島～呼子
旅客船名/かから丸
連絡先/有加唐島汽船
☎0955-82-9366



仏教徒とカトリック教徒 信仰心が厚い祈りの島

⑥ 馬渡島



馬渡島～名護屋港～呼子
旅客船名/ゆうしょう
連絡先/初野正丸
☎0955-82-9008



島全体が家族 強い絆で結ばれたアットホームな島
島の味「ガゼ味噌」は古来より珍味の中の珍味。ぜひグルメな方は、味わってみては。

むくしま ⑦ 向島



向島～星賀 旅客船名/向島丸
連絡先/向島丸☎0955-54-0815



高島の宝「宝当神社」が島おこしの起爆剤！
評判が評判を呼んで、宝くじファンに人気を集めているという「宝当神社」。
ご利益があるかどうかはお参りしてからのお楽しみ？！

たかしま ① 高島
旅客船名/ニューたかしま
連絡先/佐賀玄海漁業協同組合高島支所
☎0955-73-1585



梅

鏡神社
0955-77-3151



鏡神社梅苑（古の森会館裏）
約200本の紅梅・白梅がほのかな香りを漂わせています。
また、浜玉町横田地区～東山田地区の民家でも見事なしだれ梅が咲きます。

■見頃
2月下旬～3月上旬

花めぐり

からつ

花の街からつの魅力

唐津は、年間を通じて沢山の花を見る事ができます。また名所も多く、花のある風景は忘れられない旅の思い出となります。
いろいろな花を見に来てください。



檜原湿原植物

七山市民センター
0955-53-7175



小さな生命たちの楽園、檜原湿原、サギソウ、トキソウ、ヒツジグサなど可愛い花々が楽しめます。

■見頃
4月下旬～10月上旬

桃

七山桃の花見園（鶴田氏）
090-4588-7297



唐津市七山の海川地区にある「七山桃の花見園」で、鮮やかなピンクの桃の花が満開となり、ビニールハウス内を“春色”に染めます。

■見頃
2月下旬

シャクナゲ

北波多市民センター
0955-53-7135



樹齢約200余年の志気のシャクナゲは1株が高さ5m、枝張り3～5mあります。ピンクの可愛い花が見る人を感嘆させます。

■見頃
4月中旬

ぼたん

ぼたんと緑の丘 / 0955-53-2032
肥前市民センター / 0955-53-7145



日本や中国、アメリカ、フランスなど世界のぼたん109種2500株を集めた、ぼたん緑の丘。また約400年前から伝わる切木ぼたんは、県の天然記念物に指定され、大輪の花を咲かせます。

■見頃
4月中旬～5月上旬

紅葉

環境芸術の森
0955-63-2433



作礼山中腹にある唐津市巖木町の環境芸術の森は約18haの敷地内にモミジやカエデを中心とした広葉樹が約1万本植えられています。

■見頃
11月上旬～11月下旬

桜

唐津駅総合観光案内所
0955-72-4963



唐津には舞鶴公園（唐津城）をはじめ桜の名所が随所あり、見る人を堪能させてくれます。

■名所
鏡山 / 松浦河畔公園 / 舞鶴公園（唐津城） / 名護屋城跡 / 衣千百年桜 / 大野さくらの里

■見頃
3月下旬～4月上旬

ツツジ

唐津駅総合観光案内所
0955-72-4963



鏡山には、色とりどりのツツジが咲き競います。

■名所
鏡山 / 法安寺

■見頃
4月下旬～5月上旬

アジサイ

相知観光案内所
0955-51-8312



「日本の滝百選」に選ばれている見廻りの滝周辺は、約4万株ものアジサイが美を競います。あじさい祭には夜間ライトアップされます。

■名所
見廻りの滝 / 法安寺

■見頃
6月上旬～6月下旬

ブーゲンビリア

ブーゲンの森
0955-70-5757



唐津市浜玉町のブーゲンの森では、ブーゲンビリアが満開です。冬も暖かなビニールハウス内は、鮮やかなピンク、紫、黄色、白など、色とりどりのブーゲンビリア30種、約200本が咲き乱れています。

■見頃
10～6月・通年

菜の花

相知観光案内所
0955-51-8312



八幡岳のすそ野に広がる約700枚の蕨野の棚田。美しい石垣が特徴で平成11年に「日本の棚田百選」、14年には「日本の遊歩百選」にも認定されました。菜の花ハイクと屋台村も開催されます。

■見頃 3月下旬～4月上旬

藤

唐津城
0955-72-5697



舞鶴公園（唐津城）には、樹齢百年を越す藤の巨木があり、紫藤、白藤が見事に咲き誇ります。シーズン中はエレベーターも時間延長されます。

■見頃
4月中旬～5月上旬

ゆうすげ

鏡西観光案内所
0955-51-1052



鏡西町甲地区では、25万本のゆうすげが黄色い花を咲かせます。

■見頃
6月上旬～7月下旬
開花 夕方～翌日午前中

ベゴニア

ボンボコ村ベゴニアガーデン
0955-56-8580



鏡山中腹のボンボコ村ベゴニアガーデンには、約1,200種類以上のベゴニアが花盛り。栽培の楽しみを教わった後は唐津湾一望のガーデンカフェで、のんびりできます。

■見頃 通年

虹の松原～ 鏡山周辺

浜玉



肥前 玄海



浜野浦の棚田

遠見番所公園

三島神社

ぼたんと緑の丘 切木ぼたん

大浦の棚田

いろは島

鎮西

呼子



**波戸岬
玄海海中展望塔**

風の見える丘公園

呼子の朝市通り

呼子観光案内所

呼子大橋

名護屋城跡

県立名護屋城博物館

道の駅桃山天下市
(太閤魚市の会)
(農産直売所桃山天下市会)

鎮西観光案内所

相知



北波多

志気の大シャクナゲ

相知観光案内所
村田英雄記念館

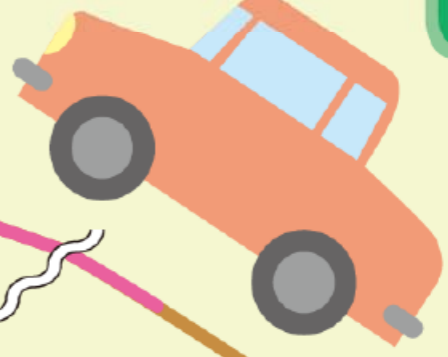
鵜殿石仏群

日本の滝百選
見歸りの滝

巖木



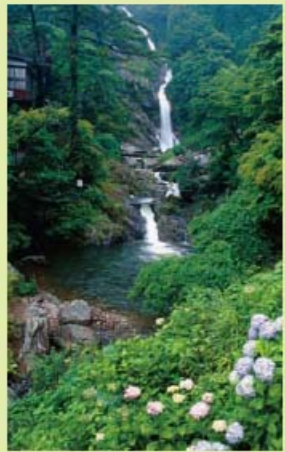
作礼山
標高887.1m



八幡岳
標高763.6m



見帰りの滝 (あじさいまつり)



伊波佐川の見帰りの滝は、男滝と女滝からなり、「日本の滝百選」にも選ばれて全国的にも有名になりました。滝とその下流沿いに植えた50種約4万株のあじさいは、初夏を感じさせる6月に可憐な花々を咲かせます。6月の1ヶ月間はあじさいまつりを開催し、夜間にはライトアップされ、訪れる人の心を和ませてくれます。

あじさいまつり

毎年6月に開催されるあじさいまつり。花の町・相知を代表する景勝地。轟音とともに落ちる滝は見ものです。初夏には町の人によって植えられた4万株のあじさいが咲き乱れ、県内外から訪れる多くの観光客でにぎわいます。



熊野神社 (相知くんち)



相知くんち

熊野神社の秋の大祭で、羽熊(はぐま)行列を先頭に御神輿(おみこし)行列・稚児(ちご)行列・山笠(やまかさ)行列などがJR相知駅前を通り約2キロメートルを練り歩きます。特に注目の集まる羽熊行列は、唐津神社より譲り受けたとされる毛槍(この毛槍を羽熊(はぐま)と呼びます)を投げ渡しながら行進します。

これは、江戸時代末期の6代目唐津藩主・小笠原家の大名行列を模したものとされ、この形態が残っているのは全国的にも非常にまれです。



浜玉町 浜崎祇園祭 マップ



諏訪神社 (浜崎祇園祭)



その昔、百濟の醫者が關原の技を諏訪姫に伝えました。醫者の帰国後、鷹がまむしに巻かれて死んだことを嘆き悲しみ自害した諏訪姫を祀る神社で、このことから諏訪神社は、「まむし除け」の神社として古くから知られています。

浜崎祇園

浜崎祇園祭は、諏訪神社内に祀られている祇園社の祭礼で、260年をこえる歴史ある祭りです。高さ約15メートル、重さ約5トンもの巨大な3台の飾り山笠(やまかさ)を、笛や太鼓、三味線の音色に合わせて締め込み姿の勇壮な男たちが曳き回します。諏訪神社から曳き出された山笠は神社周辺を練り歩き、灯りを燈した山笠が宵闇の神社境内で何十回も回転する「大まざり」でクライマックスを迎えます。





- 凡例**
- JR線
 - 国道
 - 県道・主要道
 - 有料道路
 - 船舶航路
 - 🏠 宿
 - 🍵 唐津焼
 - 🍷 みやげ
 - 🍽️ 食事
 - 📍 観光名所
 - 🌊 その他
 - ♨️ 温泉など
 - 🌊 海水浴場・水辺スポット
 - 🎆 花火大会

